

# 地震に耐え抜く構造



14

## 養鶏ケージ



養鶏場で卵が割れないケージの開発を進めるハイテムの安田勝彦社長＝岐阜県各務原市で

九層のケージで、鶏が次々と卵を産み落とす。ケージは大きいものでは、高さ六メートルもあり、まるで高層マンションのようだ。倒れば衝撃で収入源の鶏に被害が出る上、作業員も下敷きになりかねない。養鶏設備メーカーのハイテム(岐阜県各務原市)が提供するの、地震国・日本に合わせた耐震仕様の設備だ。

きっかけは二〇〇七年の新潟県中越沖地震だった。最大震度6強の揺れで、設備を供給していた鶏舎が全壊した。幸い、休憩中で作業員はいなかったが業者には多大な損害を与えた。同社によると、現在は国内の養鶏設備で五割を超えているシアを誇り、日本のトップメーカーに数えられる。だが、当時は輸入ケ

## ハイテム

(岐阜県各務原市)

1972(昭和47)年、東京都内に前身の東洋システムを設立。88年に岐阜県各務原市に本社工場を開設し、08年に現社名に変更した。年間売上高は約51億円。従業員は140人。

シの卸が主な業務で、製造はドイツメーカーに任せていた。ただ、「考え方の違いがあった」と、安田勝彦社長(63)。中越沖地震を経験して、二十二年間続いたこのメーカーとの契約を打ち切り、自社製造に切り替えた。〇八年、中国・天津に工場を設立した。

再発防止の必要性を訴えたが、「対策は織り込み済み」と取り合ってもらえなかったためだ。危機感の違いを肌で感じた安田社長は「倒れたのは事実。徹底的に対策を考えなければ」と、地元の岐阜大(岐阜市)に声を掛けた。パーツ同士が組み合わさり、揺れを全体で受け止め、衝撃を抑えるケージの構造を共同開発した。

一一年の東日本大震災では、この設備を導入した鶏舎での被害をほぼ防いだ。ただ、わずかながらケージが倒れかかった鶏舎もあった。さらに免震構造の改良を重ね、一六年の熊本地震や、今年の北海道胆振東部地震では軽微な損傷を抑えた。